

君は
知ってる?

川崎には「外国人市

川崎市は、外国人市民とともに生きる地域社会づくりのパートナーと位置付け、
そして今年、第14期
でも、どんな人が代表者になれるの?どんなことを話し合っているの?



第14期の外国人市民代表者会議の様子

川崎市は、歴史的な経緯から在日韓国・朝鮮人の方が多く住む地域でしたが、1980年代後半以降はニューカマーと呼ばれる新たな層の外国人の方たちも増加するようになり、1990年代にはいるとそうした多様な外国人市民の方たちの声やニーズをどのように市の施策に反映させていくかということが課題として浮上するようになりました。そのようななかで、1994年2月に川崎市で開かれた「地方新時代市町村シンポジウム」の場で、パ

ネリストの1人からドイツ・フランクフルト市の事例として「外国人代表者会議」の存在が紹介されたことをきっかけに、川崎市でも外国人市民代表者会議の設置が検討されることになりました。

川崎市外国人市民代表者会議は、以上のような経緯から外国人市民の市政参加を推進するための仕組みとして、川崎市が1996年に全国に先駆けて条例で設置した会議です。(要求から参加へ)〈個別と普遍〉〈相互理解と共生〉という3つの

キーワードを意識しながら、公募で選ばれた26人以内の代表者が、外国人市民が日ごろの生活の中で感じていることや抱えている問題などについて、自分たちでテーマを決めて調査審議し、その結果を市長に報告しています。また、とくに重要な意見・要望は「提言」としてまとめていて、第13期までに55個(124項目)の提言を市に出しています。代表者の任期は2年間で、2022年4月からは第14期の代表者の活動が始まっています。

提言の実現例

- 外国人市民情報コーナーの設置(1996年度提言)
- 外国人市民の実態を把握する調査の実施(2011年度提言)
- やさしい日本語に関するガイドラインの作成(2015年度提言)
- 災害時における避難所での多文化共生と外国人支援のための仕組みづくり(2017年度提言)
- 保育の利用申請をサポートするための多言語による支援の充実(2017年度提言)
- 乳幼児健康診査のための多言語による支援の充実(2019年度提言)

提言の達成度
(第12期まで) **83.5%**

(川崎市 市民文化局 市民生活部 多文化共生推進課 外国人市民施策担当 専門調査員 高橋誠一)



2021年度 市長への年次報告



インターナショナル・フェスティバル
in カワサキの展示コーナーにて(2019年)



インターナショナル・フェスティバル
in カワサキに参加(2019年)

「外国人市民代表者会議」があることを

1996年12月に外国人市民の市政参加の仕組みとして「外国人市民代表者会議」を条例で設置しました。

前期の「外国人市民代表者会議」がはじまりました。

の話し合った後はどうするの?いろいろな疑問がわいてきたら、このページで解決してみましょう。

「第14期 外国人市民代表者会議」のメンバーと座談会!

参加者



ペレーラ・ラヒル・
サンケータさん

スリランカ出身
第13、14期の委員長



リ かんかん
李 歓 歓 さん

中国出身
第13期委員、
第14期の副委員長



レイバーマン・
ケビンさん

米国出身
第13、14期委員



ヒリストバ・
ガブリエラさん

ブルガリア出身
第14期委員



マイ・
アサエルさん

メキシコ出身
第14期委員



司会

編集ボランティア
菅野 弘



進行

川崎市国際交流協会
島田秀雄

(以下、敬称略)

代表者になろうと思った理由を教えてください。

マイ: 日本への感謝の気持ちから何か貢献したいと思っていました。

子どもも二人いるので一緒に日本人と外国人の懸け橋になりたいです。

ヒリストバ: 私は三回引っ越してもずっと川崎に住み続けてるんですね。それくらい住みやすい街だと思います。代表者会議は、自分が「外国人」としてではなく、「川崎市民」として貢献できる場です。川崎市の評判を上げるために力になりたいです。

外国人市民として、関心のあることや会議で話し合いたいことなどはありますか?

ヒリストバ: 日本はプラスチックの利用が非常に多いので、プラごみの削減に取り組みたいです。この間、買い物でノープラスチックウィークを試したんですが、果物や野菜までもプラに包まれていて、ウィークにもならなかったんです。

レイバーマン: 外国人が住みやすい街は日本人も住みやすい街です。ともに生きる社会を創りたいです。まずは、川崎に来た外国人をどう歓迎するか相互理解のために重要だと思います。

李: 来日したばかりの人を助けたくて、今期も代表者を継続しました。日本語が話せずに困っている人が多いので、その人たちが日本語を教わる代わりに、自分の言語を教えるようなことができるといいです。

すね。

マイ: 妻はロシア出身、私はメキシコ出身で異文化交流なんです。ミスコミュニケーションもあったりして、それで、日本人と外国人の異文化交流にも取り組みたいと思いました。子どもの頃から異文化に触れることで、外国人へのいじめなども減ると思います。

ペレーラ: たくさん取り組みたいことがあって参加しています。なかでも日本特有の町内会の仕組みに興味があります。例えば、町内会を通じて外国人と話す機会が増えれば、さまざまな問題解決に貢献できるのではないのでしょうか。

この会議をより良いものにするためのアイデアなどありますか?

ペレーラ: この代表者会議は外国人を市民として受け入れてくれる、川崎ならではの仕組みです。認知度を高めることで、皆さんの興味・関心を高めていきたいです。

李: コロナ禍もあって、前期は代表者同士の交流ができませんでした。今期はお互いを知る機会を作って、より深い議論をしていきたいです。

ご自身の国と比較して、川崎市が学ぶべき点がありますか? どうすれば日本人と外国人が共により良い社会を創っていけると思いますか?

レイバーマン: 日本人にはみんな一緒にい

いという価値観がありますが、違うところがあっても大丈夫、という価値観を持つこと。それには学校における異文化教育をより充実させることです。

ヒリストバ: ブルガリアも移民は多くありませんが、言葉の壁があっても、外国人との近所づきあいにとても積極的です。川崎でも外国人との近所づきあいがもっと親密になるとよいのでは。家庭での教養も重要ですね。すべては家庭から始まると思っていて、日本人の親と外国人が関わる機会を増やしていければいいと思います。

外国人市民代表者に期待していることを教えてください。

川崎市 市民文化局 多文化共生推進課:

今年で14期目となり、27年目を迎える歴史のある会議です。市内には多くの外国人市民が暮らしていますが、市内に住む外国人市民の代表として選ばれた26名の代表者の皆さんには、2年間の任期の中で審議や交流等を深め、より良い提言をまとめていただきたいです。

菅野編集ボランティアの感想

初めて「外国人市民代表者会議」を見学しました。

外国人の皆さんが積極的に意見を述べられているのを傍聴し、質問などの的確で、一市民として心強く感じました。こういう皆さんがいらっしゃるから川崎がますます住みやすい街になるのだなと思いました。自分も何か積極的に関わっていきたくて思いましたし、勇気をいただきました。